

Hello! FUJISEI

No.206

厚生労働省の「平成24年度医療給付実態調査」によると、1人当たり医療費は総計で160,267円となり、年齢階級別にみると、年齢と共に徐々に下がり15～19歳で68,597円と最も低くなった後、年齢と共に高くなります。この傾向は診療種別にみても大体同じですが、歯科についてのみ5歳～9歳の1人当たり医療費が未成年の中で突出して高くなっています。

1人当たり医療費を制度ごとに見ると、協会（一般）は160,267円、組合健保137,886円、共済組合135,329円、国保計303,906円となっており、さらに国保を市町村国保と国保組合で分けると、市町村国保は314,571円、国保組合は181,105円となっています。一番高い市町村国保が一番低い共済の2.32倍と大きな差がありますが、年齢階級別にみるとその差は小さくなり、1人当たり医療費の制度別の差は年齢構成の差がその大きな要因となっています。

次に、年齢階級別に詳しくみると、総計では、市町村国保は他の3制度に比べて、「35歳～39歳」から「60歳～64歳」の間で高くなります。これを入院、入院外別にみると、入院外では各制度間において大きな格差は見られませんが、入院では、市町

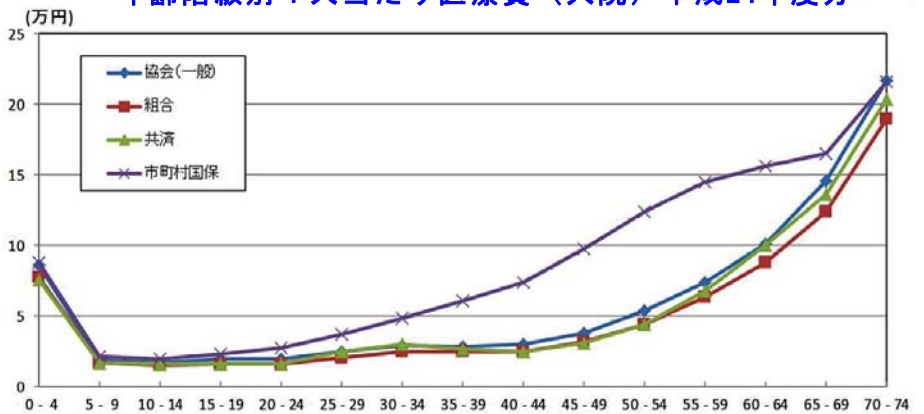
医療費

高齢期に急激に高くなる医療費

村国保が「30歳～34歳」から「60歳～64歳」までの間で高くなっています。つまり、年齢階級別にみても市町村国保の1人当たり医療費が高いのは入院が高い結果であることが分かります。さらに、この入院医療費について疾病分類別にみると、市町村国保の入院医療費については、協

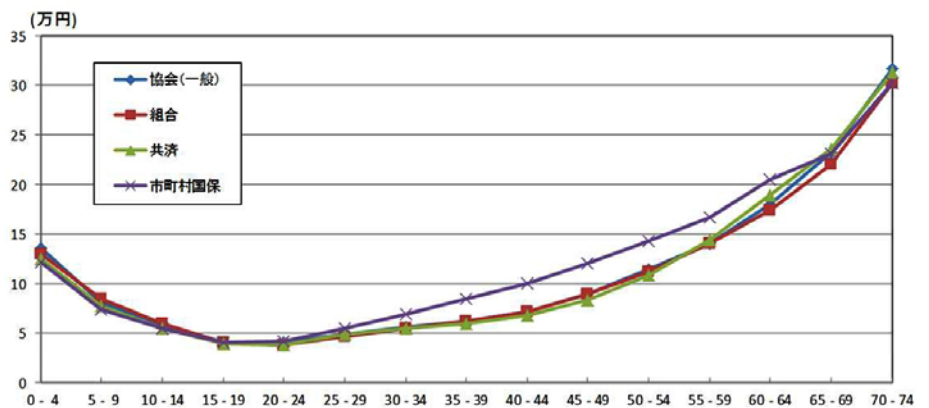
会（一般）および組合健保に比べて「精神及び行動の障害」や「神経系の疾患」が多く、「30歳～34歳」から「60歳～64歳」までの組合健保等との1人当たり医療費の差はこうした疾病構造の違いによるものと考えられます。

年齢階級別 1人当たり医療費（入院）平成24年度分



(注) 1人あたり医療費（入院）は、入院および食事・生活療養にかかる分。

年齢階級別 1人当たり医療費（入院外）平成24年度分



(注) 1人あたり医療費（入院外）は、入院外および調剤にかかる分。